

第 15 回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議  
議事要旨

1. 日時：平成 30 年 2 月 28 日（水）15:00～16:30
2. 場所：国立情報学研究所 12 階会議室
3. 出席者：

（委員館）

堀副館長，高橋事務部長（以上，東京大学附属図書館），西川館長，岡部学術情報部長（以上，筑波大学附属図書館），三浦センター長，浅見学務・教務部学術情報課長（以上，横浜市立大学学術情報センター），沼倉館長（大阪府立大学学術情報センター図書館），深澤館長，莊司事務部長（以上，早稲田大学図書館），風間事務長（慶應義塾大学メディアセンター本部），漆谷学術基盤推進部長，江川学術基盤推進部次長（以上，国立情報学研究所），

（陪席）

市古事務長・大学図書館コンソーシアム連合運営委員会委員長（慶應義塾大学三田メディアセンター），小山教授・これからの学術情報システム構築検討委員会委員長（中央大学文学部），丸山学術基盤整備室長，大堀研修生（以上，文部科学省研究振興局参事官（情報担当）付），熊淵総務課長，細川情報管理課長（以上，東京大学附属図書館），奥村情報企画課長（筑波大学附属図書館），本間総務課長（早稲田大学図書館），松本課長（慶應義塾大学メディアセンター本部），中川学務・教務部学術情報課学術情報担当係長，宍倉職員，海浦職員（以上，横浜市立大学学術情報センター），岩田総務部長，亀井学術基盤課長，菅原学術基盤課総括・連携基盤チーム係長，大向准教授，小野学術コンテンツ課長，小陳図書館連携・協力室長，吉田学術コンテンツ課副課長，服部学術コンテンツ課支援チーム係長，片岡学術コンテンツ課学術コンテンツ整備チーム係長，阪口学術コンテンツ課学術コンテンツ整備チーム係長，新妻学術コンテンツ課学術コンテンツ整備チーム係長，上村学術コンテンツ課研究成果整備チーム係長，田口学術コンテンツ課研究成果整備チーム係長，船山図書館連携・協力室係長（以上，国立情報学研究所）

4. 議事：

（報告事項）

（1）前回議事要旨案について

横浜市立大学・三浦委員長より，前回議事要旨は既に確定済みである旨の確認

があった。

( 報告・審議事項 )

( 2 ) 大学図書館コンソーシアム ( JUSTICE ) の活動について

国立情報学研究所 ( 以下 , NII ) 小陳室長より , 資料 2-1 から 2-7 に基づいて報告があり , 2018 年度運営委員会委員について承認された。

( 3 ) これからの学術情報システム構築検討委員会の活動について

中央大学・小山教授より , 資料 3-1 から 3-3 に基づいて報告があり , 以下の意見交換の後 , 次期活動計画 , 規程の改定が承認された。さらに当該規程をもとに , 2018 年度委員についてもあわせて承認された。

- 1 主査の任命について , 委員の中から主査を選ぶ方式に変更するという提案だが , まず主査を決めて , その対象者に委員になってもらうという運用もあるのではないかと。
  - JUSTICE のルールを参考にして , 今回の形式を提案した。まずはこの方式を進めていきたい。
  - 作業部会発足時に , これからの学術情報システム構築検討委員会で主査を任命する規程となっており , その点との整合性を持たせるために , この方式を提案した。
- 1 これからの学術情報システム構築検討委員会活動計画 ( 案 ) の , 電子リソースデータ共有作業部会の活動として挙げられている国際連携について , CBS 導入館への調査等があるが , それらは NACSIS-CAT/ILL に関連が深い内容ではないのか。
  - 電子リソースと紙媒体を一括で取り扱える目録やシステムの検討が必要だが , NACSIS-CAT/ILL 検討作業部会は , 新しい NACSIS-CAT への移行作業を早急に進めなければならず , 電子リソースまで手が回らない状況のため , 電子リソースデータ共有作業部会でも CBS 等についても情報を収集し , 今後 , 本委員会で検討を進める際に , 情報提供できるようにすることを想定している。
- 1 電子リソースと紙媒体を同様に扱えるシステムの検討について , 選択肢がいくつかあるという説明だが , どのように検討していくのか活動計画上は , それを読み取りにくい。
  - 作業部会の活動計画のところに情報収集の対象とする具体的なシステム名を挙げているため分かりづらい書き方となっているが , 電子リソースと紙媒体を同様に扱えるシステムの検討については , より包括的

に本委員会の場で検討していくつもりである。

( 報告事項 )

( 4 ) オープンアクセスリポジトリ推進協会 ( JPCOAR ) の活動について

筑波大学・岡部部長より資料 4 に基づいて報告があった。

( 5 ) SCOAP<sup>3</sup> タスクフォースの活動について

東京大学・細川課長より資料 5 に基づいて報告があり、以下の意見交換があった。

- Ⅰ 日本としての APS 拠出額について、SCOAP<sup>3</sup> への参加機関が増加したことで、APS 拠出額はどの程度充足したのか。
  - 参加機関が増えても 40% 程度不足している。今後の CERN との調整については、様子を見る必要がある。日本以外にも不足している国があり、今後の課題となっている。

( 6 ) 国公立大学図書館協力委員会の最近の動向

横浜市立大学・浅見課長より資料 6 に基づいて報告があった。

( 7 ) 国立情報学研究所の最新の動向

NII・小野課長より資料 7-1 から 7-2 に基づいて報告があった。

( 8 ) 平成 29 年度国立情報学研究所教育研修事業について

NII・菅原係長より資料 8 に基づいて報告があった。

( 9 ) その他

以下のような意見交換があった。

- Ⅰ 会議資料の日時、年度の表記について、西暦と和暦とが混在している。和暦を使わなければならない理由はあるのか。意見を伺いたい。
  - 早稲田大学では西暦を導入している。ただし、文部科学省に提出する書類は和暦を使用している。
  - 国立は和暦を使う習慣があるが、公立や私立、機関によっては西暦を使っていて、不統一にも見えるので、今後の検討課題としたい。

以 上